

宮ノ反A遺跡群
塚ノ前遺跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2023.3
小諸市教育委員会

例　言

- 1 本書は宅地造成に伴う宮ノ反A遺跡群塚ノ前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本発掘調査は事業主より委託を受け、小諸市教育委員会が実施した。
- 3 本書の作成・編集は、高橋陽一、井出勇介が行った。
- 4 遺物実測、遺物写真撮影は、株式会社アルカに委託した。
- 5 本書に掲載した地図は小諸市発行の都市計画基本図を使用した。
- 6 本書及び出土遺物は小諸市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

- 1 遺構の略称
S B—堅穴建物址 S K—土坑址 P—柱穴址
- 2 挿図の縮尺
調査全体図—1/100 堅穴住居址—1/80 土器—1/4 鉄器・鉄製品—1/2
- 3 出土遺物の法量は、口径、器高、底径の順に記載し、()は現在値、<>は推定値を示す。
- 4 挿図中におけるスクリーントーンは下記のとおりである。

・遺構  地山  焼土  石
・遺物  黒色処理  須恵器表面

- 5 土層の色調は「新版　標準土色帖」(1990年版)による。

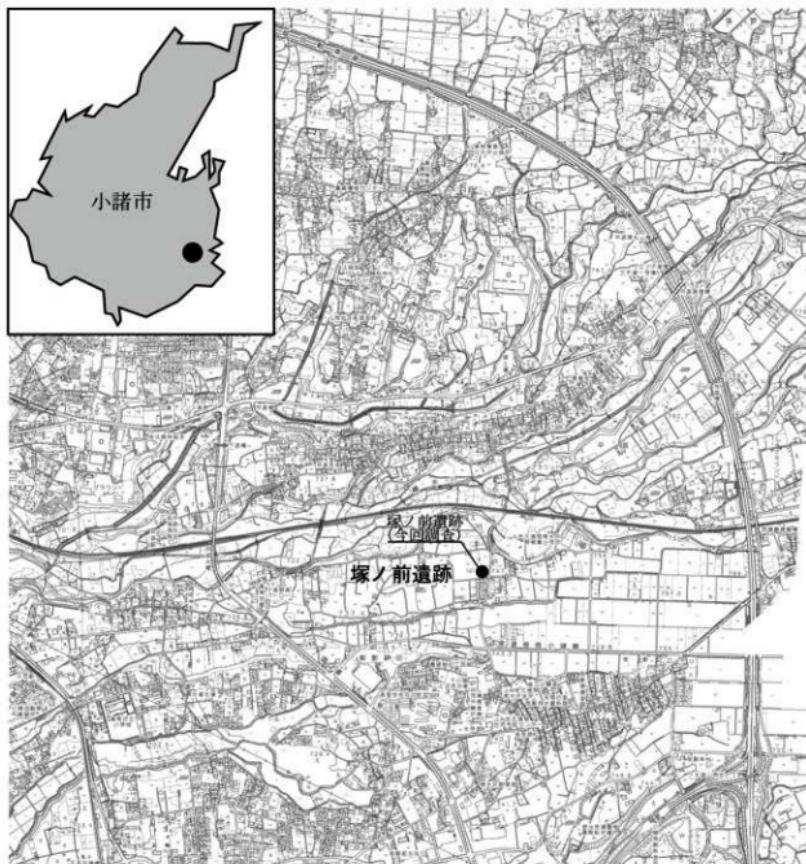
目　次

例　言	
凡　例	
目　次	
第1章 発掘調査の経過と方法	1
第2章 遺跡の環境	5
第3章 基本層序	7
第4章 遺構と遺物	8
第5章 総括	19
写真図版	
報告書抄録	
奥付	

第1章 発掘調査の経過と方法

第1節 調査に至る経緯

宮ノ反A遺跡群塚ノ前遺跡内において宅地造成が計画される。令和4年2月22日、事業主より文化財保護法第93条第1項及び文化財保護法施行令第5条第2項の規定に基づく届出が小諸市教育委員会に提出され、長野県教育委員会に進達。令和4年3月8日に試掘調査を実施したところ、遺構が確認されたため事業主と遺跡保護の協議を行う。結果、遺構の破壊が免れない範囲について、記録保存を目的とする発掘調査を実施することで決着し、令和4年3月18日に埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結のうえ発掘調査に着手した。



第1図 宮ノ反A遺跡群塚ノ前遺跡の位置 (1:10,000)

第2節 発掘調査の概要

- 1 遺跡名称 宮ノ反A遺跡群塚ノ前遺跡（遺跡略号MSTM）
- 2 調査地籍 長野県小諸市大字御影新田字塚ノ前 1328-1、1328-11
- 3 発掘期間 令和4年3月18日～同年4月12日
- 4 整理期間 令和4年4月12日～同年11月30日

第3節 調査体制

- 1 調査受託者 小諸市教育委員会 教育長 山下千鶴子
- 2 事務局 教育次長 富岡昭吾
文化財・生涯学習課長 安藤貴正
文化財・生涯学習係長 小山輝之
文化財・生涯学習係 高橋陽一 土屋敦 望月博史 阿部達彦 土屋千浩
井出勇介
(ただし、望月博史は令和4年3月31日まで。阿部達彦及び井出勇介は令和4年4月1日から。)
- 3 協議調整者 望月博史
- 4 調査担当者 高橋陽一、望月博史
- 5 発掘作業員 小諸市総務部施設管理室：岩下博至 小林健志 花岡善行
(令和4年4月1日から、小諸市建設水道部建設課所属)
シルバー：星野保彦 佐藤光勇 山口幸子 大和田誠 峰村和子 伊藤登造
古谷里江

第4節 調査の方法

1 遺構調査の手順

基本的な調査の進め方であるが、まず、重機で表土を除去した後、草かき等を用いて遺構検出作業を実施した。表土剥ぎで発見された遺物は調査区の一括で付番し取り上げた。

各遺構は、半裁、ベルトの設置等により土層堆積状況を確認し、断面の写真撮影、実測図化後、全体を掘り下げて写真撮影、平面図形の実測を行った。なお、堅穴住居に関しては、完掘後に床面下（掘方）の状況を確認している。

平面検出時に新旧のわからない遺構、あるいは、擾乱等によりプランが不鮮明な遺構については、隨時サブトレーンチを入れて土層堆積状況を確認しながら作業を進めた。

出土遺物について、一般的な土器等の破片資料は、各遺構の一括遺物として付番して取り上げたが、出土状況に特徴のあるもの、もしくは遺物そのものが特徴的なものについては出土状況を撮影したのち、付番して取り上げた。

図面記録については、平面図は平板を用い実測した。水準測量にはレベルを用い、直視または水糸で水平線を設定し、スタッフ、コンベックスによって測点を計測した。

写真記録については、35mm相当のデジタル一眼レフカメラを使用した。

2 調査日誌抄録

令和4年

3月 18 日（金） 晴

表土剥ぎ。

3月 22 日（火） 晴

機材搬入。

3月 23 日（水） 晴

遺構検出。

3軒の堅穴住居址を確認。調査用 BM 打設。

3月 24 日（木） 晴

遺構掘削開始。

ベルトを残しながら住居址の掘削を開始。堅穴住居址については、時期の新旧は出土遺物から判断する限り、古い順に SB1 → SB2 → SB3。

3月 25 日（金） 晴

遺構掘削。全体図作成。

平板により全体図作成。SB3 の全体写真撮影及び南北セクション図作成。

3月 28 日（月） 晴のち曇

遺構掘削。

SB1 の南北セクション図作成、土層観察。掘削。SB2 はコーナー柱穴及びピット 3 のセクション図、エレベーション図を作成する。SB3 は掘方を残し、完掘。

3月 29 日（火） 曇

測量図作成。遺構掘削。

SB2 を完掘。写真撮影し、平面図を作成する。SB1 の掘削範囲拡張。

4月 6 日（水） 晴

測量図作成。遺構掘削。

SB1 の掘削、床面精査。SB1 の主柱穴セクション図作成(掘り込みから一連で)。SB3 の平面図(1/200)、ピット 1 エレベーション図作成。

4月 7 日（木） 晴

SB1 の写真撮影、平面図作成、掘方掘削。SB3 掘方掘削。

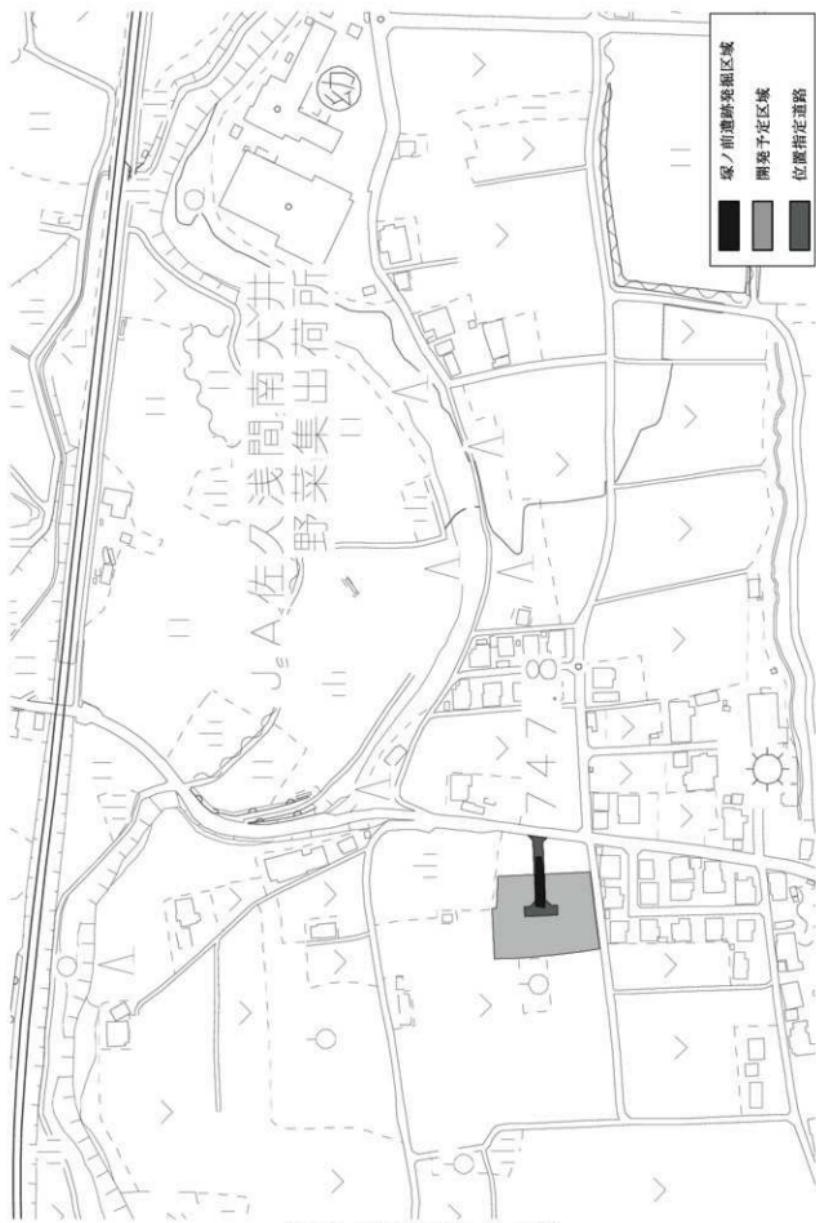
4月 11 日（月） 晴

SB1 内の SK1 エレベーション図作成。SB1 カマドセクション図作成。掘方掘削写真撮影。SB1、SB3 の掘方完掘写真撮影

4月 12 日（火） 晴

調査区南壁セクション図作成。

現場作業終了。機材撤去。整理作業開始。



第2図 調査区設定図 (1:500)

第2章 遺跡の環境

第1節 自然環境

宮ノ反A遺跡群塚ノ前遺跡は、小諸市の東南部地区、大字御影新田字塚ノ前地籍にあり、市域の南部を東西に流下する練矢川左岸の台地上、標高 745m 地点に位置する。

遺跡の基盤をなす層は北東に聳える浅間山が噴出させた火碎流の堆積層で、浅間軽石流と呼ばれる本層は市域の東半分以上を覆っており、層厚は 50cm 以上に及ぶ場所もある。軽石流堆積層は軽じようで凝結性に乏しく崩壊しやすい性質があり、そのため流水等で簡単に侵食され深く急峻な谷地形を形成させる。市域にはこうした谷が樹枝状に伸びており、古くから水利を得られる谷部を水田や畠地として利用してきた。この特徴的な谷地形を「田切地形」と呼び、田切の谷に挟まれた台地上に塚ノ前遺跡は存在する。

この付近の水便是遺跡の北側を東から西へ流下する操矢川とその支流であり、また南側には江戸初期に開削された御影用水の分流が西方に流れている。

第2節 歴史的環境

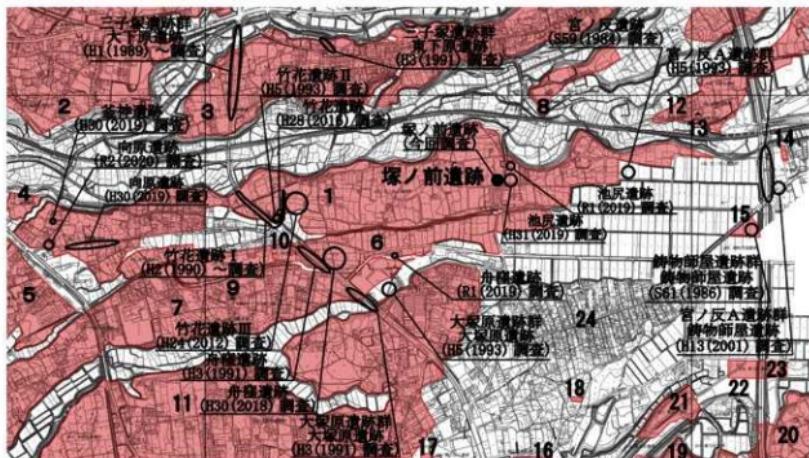
今回調査した塚ノ前遺跡は宮ノ反A遺跡群に包括される遺跡で、小諸市の東南部、南大井地域に属する。市内の遺跡立地を概観した場合、東南部地域においては、田切の谷に挟まれた台地上に位置する場合が顕著である。

大地における生活の痕跡は古く縄文時代から認められ、遺構の発見がないものの縄文時代後葉の土器や石器が採集されている。集落の増加が顕著になるのは古墳時代後期からであり、塚ノ前遺跡周辺でいうと、平成3年からはじまつた国道141号線バイパスの新設工事に伴い調査された三子塚遺跡群東下原遺跡・大下原遺跡、宮ノ反A遺跡群竹花遺跡、舟窪遺跡、大塚原遺跡群大塚原遺跡といった遺跡で、古墳時代中期までほぼ認められていなかった堅穴住居址群が6世紀中葉頃より突如として表れて急速に発展し、9世紀後半まで続いていく集落の変遷が確認されている。また、塚ノ前遺跡より西へ約1.5mの地点にある向原遺跡では、古墳時代後期から奈良時代の中に収まる堅穴式住居址、掘立柱建物址が検出されている。特に奈良時代前期の住居址は、規模や構造、使用木材、また出土遺物から非常に高位な人物の住居であったことが想定されている。

出土遺物も目を見張るものが多い。竹花遺跡では土製模造六鈴鏡が古墳時代後期の住居址のカマド脇から出土しており、また、7世紀代を中心に関外系土器も著しく、舟窪遺跡と大塚原遺跡では畿内系暗文土器が出土し、竹花遺跡では駿東型甕、伊勢型甕や北島型暗文土器、東下原遺跡では比企型甕が出土するなど、当該期における人々の往来を窺うことのできる資料が数多く発見されている。また、向原遺跡では、概ね古墳時代から奈良時代に比定される土師器、須恵器のほか、畿内産の暗文土器、円面鏡、須恵器坏蓋の転用碗といった遺物が出土している。

奈良・平安時代になると各遺跡で墨書き土器が出土するが、竹花遺跡で「大井」銘の墨書き土器が出土しており、『和名類聚抄』にある大井郷の北端を当該地域に比定する根拠となっている。関連して円面鏡、転用碗といった硯も出土するが、これは一定の識字層の存在を証明するとともに、律令期における末端行政を支えた人々が当該地域の集落に居住していたことを示している。

また、上信越自動車道建設に先立ち、平成5年に長野県埋蔵文化財センターにより実施された発掘調査では、溝で方形に区画され内部に数棟の掘立柱建物跡が置かれた、古墳時代末から古代（6世紀後葉～8世紀前半・9世紀）の遺構が発見されている。これは、何らかの官衙跡と判明しており、7世紀末に出現し、8世紀末に建て替えられ、規模を拡大している。こうした官衙跡は佐久地方で初めての発見例である。現在では隣接する鉢師屋遺跡群周辺に想定される東山道長倉駅に関わる施設であるとの見解が有力であり、長倉駅の運営をまかなく駅田からの収穫物を収める「駅倉」であるとの見方もある。古代における塚ノ前遺跡の周辺は、非常に開けた地域であったと思われる。



第3図 周辺遺跡分布図 (1:20,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	種別				時代					
			古石器	新石器	過渡期	縄文	彌生	古墳	奈良	平安	中世	近世
1	宮ノ反A遺跡群	御影新田字宮ノ反・ほか		○		○	○	○	○	○	○	
2	柏木原遺跡群	柏木原柏木原	ほか		○			○	○	○	○	
3	二子塚遺跡群	平原字二子塚	ほか		○		○	○	○	○	○	
4	豪神遺跡	御影新田字豪神	○				○	○	○	○	○	
5	山神道路	森山字山神	ほか		○			○	○	○	○	
6	舟宿道路	御影新田字舟宿	ほか	○			○	○	○	○	○	
7	大塚原遺跡群	御影新田字大塚原	ほか	○			○	○	○	○	○	
8	三弘治山城跡	平原字三弘治		○						○		
9	一ツ谷人塚古墳	御影新田字久塚原	1996		○		○					
10	舟宿船跡	御影新田字舟宿		○						○		
11	谷池原遺跡群	御影新田字谷池原	ほか	○			○	○	○	○	○	
12	長野原遺跡	平原字長野原	○			○	○	○	○	○	○	
13	長野原古墳	平原字長野原		○			○					
14	宮ノ反B遺跡	御影新田字宮ノ反	○				○	○	○	○	○	
15	鶴物御屋遺跡	御影新田字鶴物御屋		○				○	○	○	○	
16	和田原遺跡群	和田字和田原	ほか	○			○	○	○	○	○	
17	和田原A遺跡	和田字和田原		○					○			
18	春久保遺跡	和田字春久保	○						○			
19	諫田原遺跡	御影新田字諫田原		○				○	○	○		
20	中原遺跡群	御影新田字中原	ほか	○				○	○	○	○	
21	野火村遺跡	御影新田字野火村		○						○		
22	野火村古墳	御影新田字野火村			○			○				
23	野火村遺跡	御影新田字野火村		○				○	○	○	○	
24	御影南遺跡	御影新田字船形	994							○		

小諸市教育委員会 1994『東下原・大下原・竹花・舟庵・大塚原遺跡』

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 17集

小諸市教育委員会 2012『宮ノ反A遺跡群竹花遺跡III』小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 33集

小諸市教育委員会 2019『宮ノ反A遺跡群向原遺跡』小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 37集

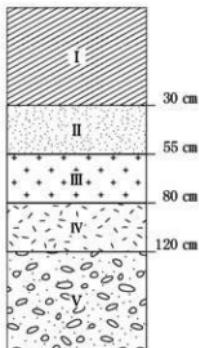
佐久考古学会 2021『佐久の考古遺産』

第3章 基本層序

塚ノ前遺跡は縁矢川左岸の台地上に位置する。遺跡の基盤をなす層は北東に聳える浅間山が噴出させた火碎流の堆積層で、遺構確認は本層上面において行った。

基本層序は以下のとおりである。

- I層 黒褐色土 (10YR2/3)。ゆるい。表土。耕作土。
- II層 褐色土 (10YR4/4)。ややしまりあり。明黄褐色ローム、黒色ブロック、 ϕ 5 mm ~ 20mm 大バミス混じる。
- III層 暗褐色土 (10YR3/4)。 ϕ 5 mm 大バミス 7 %混。
- IV層 暗褐色土 (10YR3/4)。褐色土 (10YR4/6) 30%、 ϕ 5 mm 大バミス 5 %混。
- V層 浅間軽石流堆積層。



第4図 層序模式図

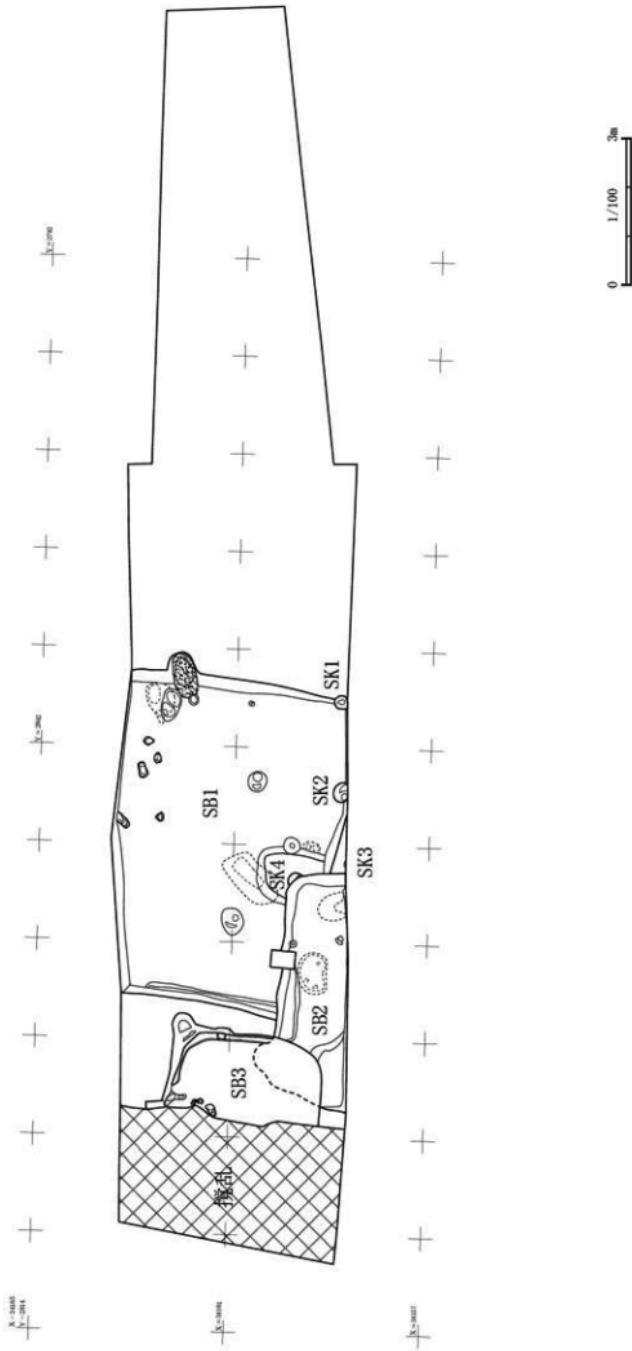
第4章 遺構と遺物

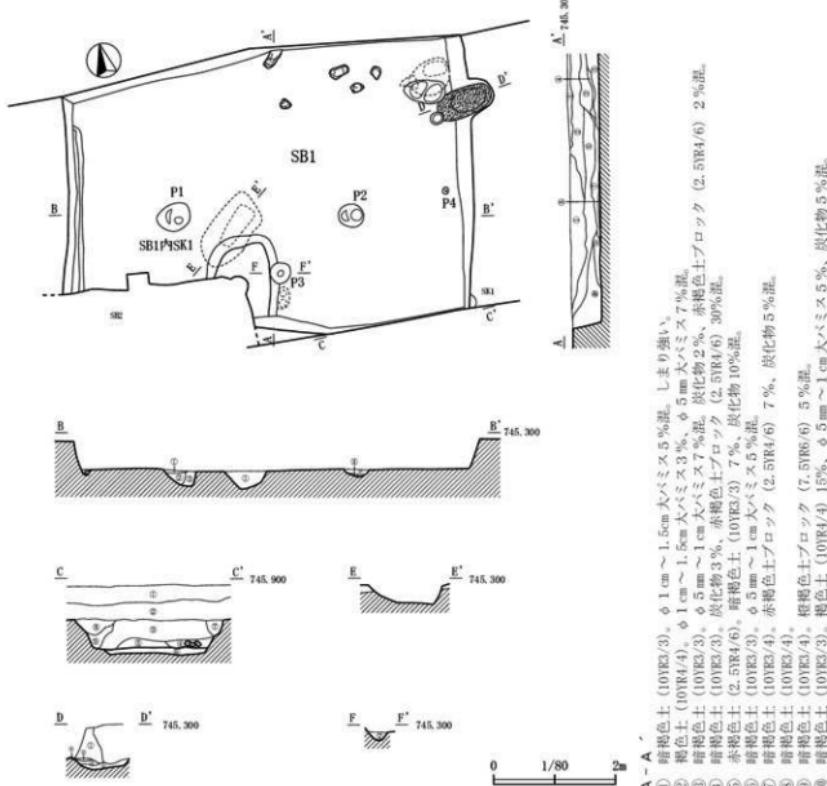
第2表 遺構観察表

住居址							
遺構	規模形状	重複關係	カマド	主柱穴	埋 土	出土遺物	時 期
1号住居址 (SB1) 【第6図】	・東西6m、南北不明 ・方形 ・側壁面からの壁高48cm ・側壁間に段差あり。出入口にかかる造作か。	SB2に切られる。 ・東壁に構築されている。 ・焚口から階道までの長さ96cm ・カマドの芯材として用いた礫が散乱している。	・2基 ・深さ平均20cm の円形ヒット	10層	土師器/須恵器 /鉄製品	古墳時代後期 (7世紀後半)	
2号住居址 (SB2) 【第8図】	・東西5m、南北不明 ・方形 ・側壁面からの壁高48cm	SB1を切り、SB3 に切られる。	不明	7層	須恵器/鉄製品	奈良時代 (8世紀第3四半紀)	
3号住居址 (SB3) 【第10図】	・東西不明、南北3m ・側壁面からの壁高48cm ・方形	SB2を切る。 ・北壁に構築されている。 ・焚口から階道までの長さ60cm~70cm	不明	5層	土師器/須恵器	平安時代 (8世紀末~9世紀前半)	

土 坑						
遺構	規模形状	用 途	出 土 遺 物	時 期		
1号土坑 (SK1) 【第12図】	径32cmの円形	不明	なし	SB1の埋土を掘り込んでいたため古墳時代後期より後		
2号土坑 (SK2) 【第12図】	径40cmの円形	不明	なし	SB1の埋土を掘り込んでいたため古墳時代後期より後		
3号土坑 (SK3) 【第12図】	規模形状不明	不明	なし	時期不明		
4号土坑 (SK4) 【第12図】	径32cmの円形	不明	土師器(脚部がとれた壺軒か)	奈良時代のSB2に切られたため古墳時代後期か。		

第5図 塚ノ前遺跡全体図(1:100)





- B - B'**
- 暗褐色土 (10YR3/3)。褐色土ブロック (10YR4/6) 5%混。
 - 暗褐色土 (10YR3/3)。褐色土 (10YR4/4) 10%混。
 - 暗褐色土 (10YR3/3)。褐色土ブロック (10YR4/4) 10%、 ϕ 1cm 大バミス 1%混。
 - 褐色土 (10YR4/4)。
 - 暗褐色土 (10YR3/3)。 ϕ 5mm 大バミス 5%混。

- C - C'**
- 黒褐色土 (10YR2/3)。ゆるい表土。耕作土。
 - 褐色土 (10YR4/4)。ややしまりあり。明黄褐色ローム、黒色ブロック、 ϕ 5mm ~ 20mm 大バミス混じる。
 - 暗褐色土 (10YR3/3)。褐色土 (10YR4/4) 15%。 ϕ 5mm ~ 1cm 大バミス 5%。炭化物混。
 - 暗褐色土 (10YR3/4)。橙褐色土ブロック (7.5YR6/6) 5%混
 - 黒褐色土 (10YR2/2)。炭化物混。拳大のレキ混。
 - SB1 掘方。

- D - D'**
- 褐色土 (10YR4/4)。ややしまりあり。明黄褐色ローム、黒色ブロック、 ϕ 5mm ~ 20mm 大バミス混じる。
 - 炭化物堆積。
 - 明褐色土 (10YR6/6)。灰白色土 (10YR8/1)、褐色土 (10YR4/6)、赤褐色土ブロック (2.5YR4/6) まだらにまじる。
 - 焼土、炭化物混。

- F - F'**
- 褐色土 (10YR4/4)。ややしまりあり。明黄褐色ローム、黒色ブロック、 ϕ 5mm ~ 20mm 大バミス混じる。

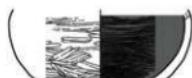
第6図 1号住居址実測図 (1:80)

- A - A'**
- 暗褐色土 (10YR3/3)。 ϕ 1cm ~ 1.5cm 大バミス 5%混。しまり強い。
 - 褐色土 (10YR4/4)。 ϕ 1cm ~ 1.5cm 大バミス 3%。 ϕ 5mm 大バミス 7%混。
 - 暗褐色土 (10YR2/3)。 ϕ 5mm ~ 1cm 大バミス 7%混。炭化物 2%、赤褐色土ブロック (2.5YR4/6) 2%混。
 - 暗褐色土 (10YR3/3)。炭化物 2%、赤褐色土ブロック (2.5YR4/6) 30%混。
 - 赤褐色土 (10YR4/4)。 ϕ 5mm ~ 1cm 大バミス 5%混。
 - 暗褐色土 (10YR3/3)。 ϕ 5mm ~ 1cm 大バミス 5%混。
 - 赤褐色土 (10YR4/4)。赤褐色土ブロック (2.5YR4/6) 7%、炭化物 10%混。
 - 暗褐色土 (10YR4/4)。 ϕ 5mm ~ 1cm 大バミス 5%混。
 - 暗褐色土 (10YR4/4)。褐色土 (10YR6/6) 5%混。
 - 褐色土 (10YR4/4)。 ϕ 5mm ~ 1cm 大バミス 5%混。
 - 暗褐色土 (10YR3/3)。褐色土 (10YR4/4)。

土 器



01



02



03



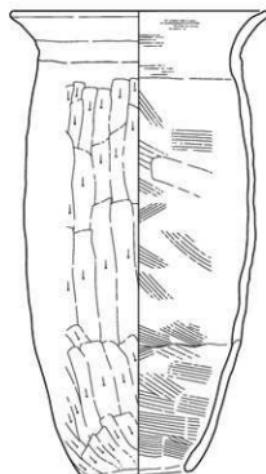
04



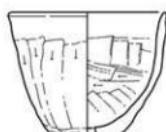
05



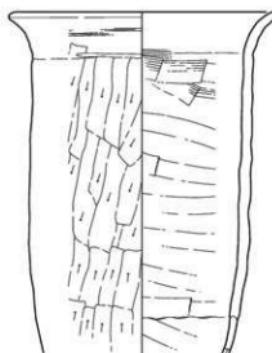
06



07



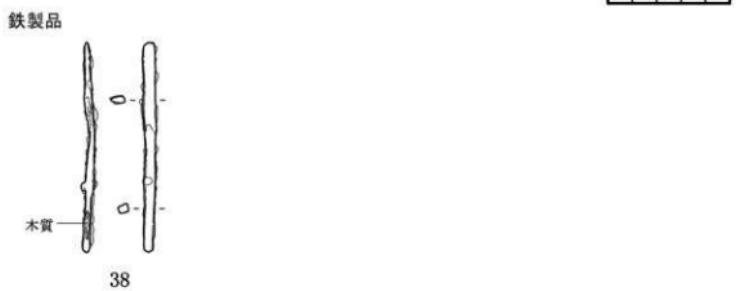
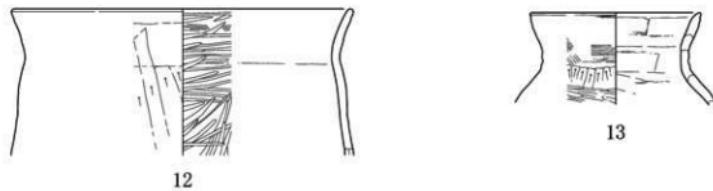
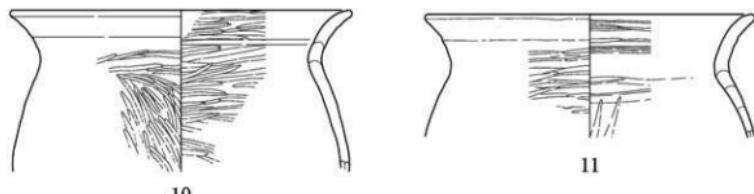
08



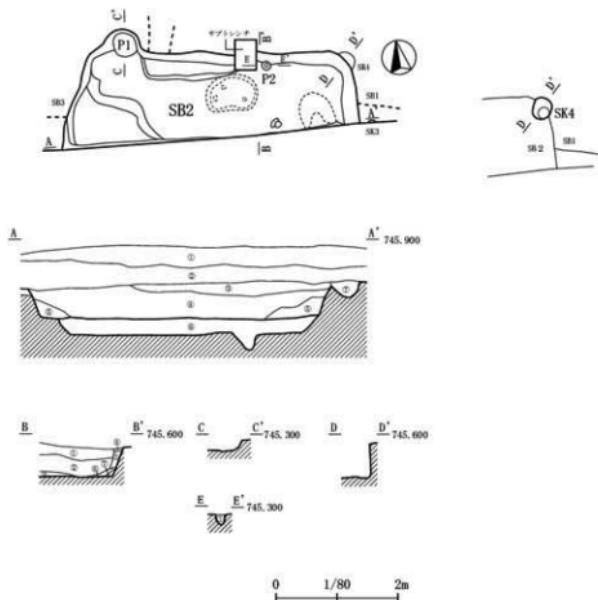
09

0 $\frac{1}{4}$ 10cm

第7-1図 1号住居址出土遺物実測図



第7-2図 1号住居址出土遺物実測図



- A - A'**
- ① 黒褐色土 (10YR2/3)。ゆるい。表土。耕作土。
 - ② 褐色土 (10YR4/4)。ややしまりあり。明黄褐色ローム、黒色ブロック、 ϕ 5 mm ~ 20 mm 大バミス混じる。
 - ③ 暗褐色土 (10YR3/4)。 ϕ 5 mm 大バミス 7 %混。
 - ④ 暗褐色土 (10YR3/4)。褐色土 (10YR4/6) 30%。 ϕ 5 mm 大バミス 5 %混。
 - ⑤ 暗褐色土 (10YR3/4)。褐色土 (10YR4/6) 40%。
 - ⑥ SB2 稲方。
 - ⑦ 黒褐色土 (10YR2/2) 15%混。
- B - B'**
- ① 暗褐色土 (10YR3/4)。 ϕ 5 mm バミス 7 %混。SB2 埋土。
 - ② 暗褐色土 (10YR3/4)。褐色土 (10YR4/6) 30%。 ϕ 5 mm 大バミス 5 %混。SB2 埋土。
 - ③ 暗褐色土 (10YR3/4)。
 - ④ 黒褐色土 (10YR2/3)。5 mm ~ 7 mm 大バミス 7 %混。SB1 埋土の上。
 - ⑤ 暗褐色土 (10YR3/4)。3 mm ~ 5 mm 大バミス 10 %混。SB1 埋土。
 - ⑥ 黒褐色土 (10YR2/3)。炭化物 2 %混。SB1 埋土。
 - ⑦ 褐色土 (10YR4/6)。SB1 埋土。
- E - E'**
- ① 黒褐色土 (10YR3/2)。

第8図 2号住居址実測図 (1:80)

土 器



16



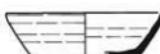
17



18



19



20



21



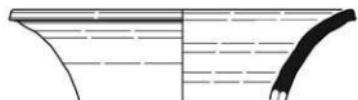
22



23



24



25



26



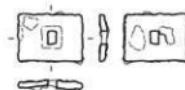
27

0 1/4 10cm

鉄製品



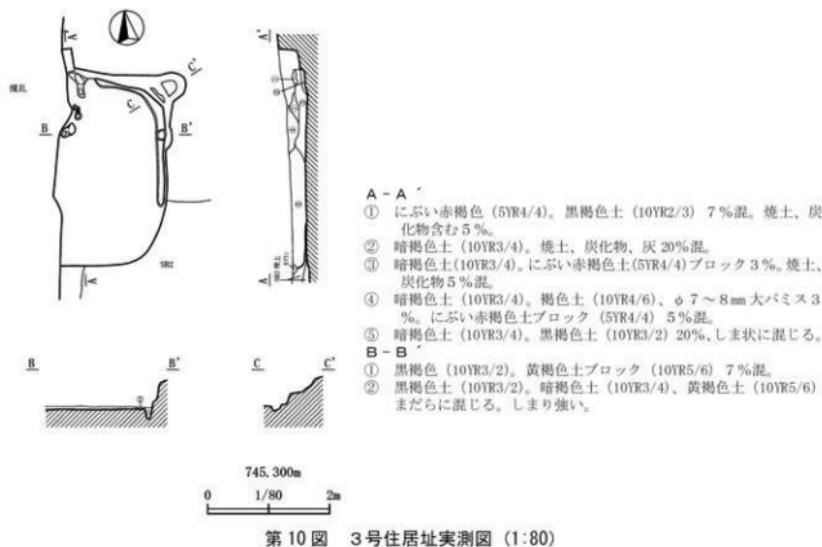
39



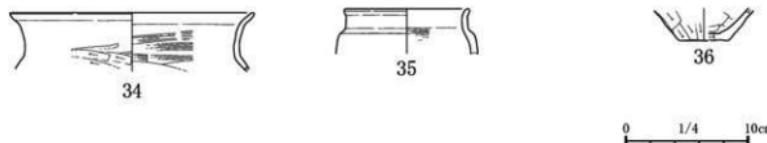
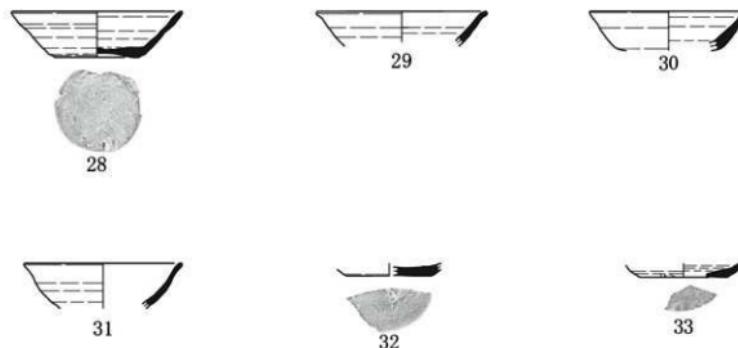
40

0 1/2 5cm

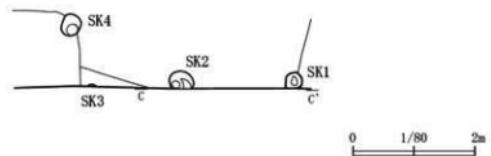
第9図 2号住居址出土遺物実測図



第10図 3号住居址実測図 (1:80)



第11図 3号住居址出土遺物実測図



第12図 1号土坑、2号土坑、3号土坑、4号土坑実測図 (1:80)



第13図 4号土坑出土遺物実測図

第3表 遺物観察表

() : 現在値 < > : 推定値

番号	住居址番号	土器	器種	残存	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	施土	焼成	色調	備考
1	SB1	土師器	高杯	脚部 1/4 (脚部欠損)	16.0	5.5	—	普通	良好	外面: 棕色 内面: 淡褐色~黑色	
2	SB1	土師器	高杯	脚部 1/2 (脚部欠損)	—	<7.9>	—	普通	良好	外面: 棕褐色 内面: 黑色	内黑
3	SB1	土師器	高杯	脚部 1/2	—	<6.8>	—	普通	良好	外面: 棕褐色 内面: 黑色	内黑
4	SB1	土師器	杯	口縁 1/8	(11.6)	<6.1>	—	普通	良好	外面: 黑色 内面: 黑色	外面器面荒れ
5	SB1	土師器	蓋	底部 1/2	—	<2.8>	7.0	精緻	良好	外面: 黄褐色 内面: 黄褐色	
6	SB1	土師器	蓋	底部 1/4	—	<3.6>	(8.2)	普通	良好	外面: 黄褐色~黑色 内面: 淡黄色	底部穿孔あり
7	SB1	土師器	瓶(大)	口縁先形	21.4	38.5	9.0	粗	良好	赤褐色	
8	SB1	土師器	瓶(小)	口縁先形	13.0	10.7	5.4	粗	良好	外面: 黑褐色	
9	SB1	土師器	長脚甌	口縁~腹筋上半球形	22.0	<28.6>	—	粗	良好	明褐色	外面一部灰付着
10	SB1	土師器	甌	口縁 1/3	28.0	<13.0>	—	粗	良好	外面: 暗褐色~黑色 内面: 褐色~赤褐色	
11	SB1	土師器	甌	口縁 1/2	27.0	<10.1>	—	粗	良好	灰黃褐色~暗褐色	
12	SB1	土師器	甌	口縁~腹筋 1/8	(28.0)	<12.0>	—	普通	良好	褐色	
13	SB1	土師器	甌	口縁~腹筋 1/3	14.0	<7.6>	—	普通	良好	赤褐色	一部黒變
14	SB1	須恵器	甌	口縁 3/4	14.4	<3.1>	—	普通	良好	灰~淡褐色	
15	SB1	須恵器	甌	口縁 1/8	—	<2.6>	10.0	普通	良好	灰褐色	
16	SB2	須恵器	杯	1/10	—	<1.1>	(14.0)	普通	良好	灰色	
17	SB2	須恵器	杯	1/10	—	<1.4>	(14.0)	普通	良好	灰色	
18	SB2	須恵器	杯	1/12	—	<1.4>	(13.4)	普通	良好	灰色	
19	SB2	須恵器	杯	漏斗 1/7	—	<1.4>	(14.0)	普通	良好	灰色	
20	SB2	須恵器	杯	口縁~底筋 1/4	13.0	3.8	8.4	普通	良好	灰褐色	

番号	住居址番号	土器	器種	残存	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	粘土	焼成	色調	備考
21	SB2	須恵器	环	口縁1/8	(14.0)	<2.9>	—	普通	良好	灰色	
22	SB3	須恵器	环	口縁1/10	13.0	<2.7>	—	普通	良好	灰色	
23	SB2	須恵器	环	底部1/4	—	<2.4>	9.0	普通	良好	灰色	
24	SB2	須恵器	环	底部1/3	—	<1.8>	8.0	普通	良好	灰色	
25	SB2	須恵器	甕	口縁1/4	27.8	<7.6>	—	普通	良好	灰色	
26	SB2	須恵器	甕	破片	—	—	—	普通	良好	灰色	
27	SB2	須恵器	甕	破片	—	—	—	普通	良好	灰色	
28	SB3	須恵器	环	底部1/1～口縁1/2	14.0	3.8	7.0	普通	不良	灰褐色	
29	SB3	須恵器	环	口縁1/8	14.0	<2.6>	—	普通	不良	灰褐色	
30	SB3	須恵器	环	口縁1/8	13.0	<3.3>	—	普通	不良	灰褐色	
31	SB3	須恵器	环	口縁1/8	13.0	<3.7>	—	普通	良好	灰褐色～赤褐色	
32	SB3	須恵器	环	底部1/3	—	<1.1>	(7.0)	普通	良好	灰色	
33	SB3	須恵器	环	底部1/10	—	<1.2>	(7.0)	普通	良好	灰褐色	
34	SB3	土師器	武藏燒	口縁1/5	20.0	<4.8>	—	普通	良好	赤褐色	
35	SB3	土師器	武藏燒	口縁1/12	(10.0)	<3.7>	—	普通	良好	外面：赤褐色 内面：黑色	
36	SB3	土師器	武藏燒	底部1/3	—	<2.7>	(4.0)	普通	良好	外面：赤褐色 内面：茶褐色	
37	SK4	土師器	高环	片部丸形(脚部欠損)	20.0	<5.6>	—	普通	良好	外面：赤褐色 内面：黑色	内黑

鉄製品

番号	住居址番号	器種	残存	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
38	SB1	鉗櫛	先端欠損?	7.7	85.5	6.8	4.74	
39	SB2	刀子	先端・基部欠損	10.1	70.5	11.8	5.71	
40	SB2	?	?	21.1	26.9	5.8	5.32	

第5章 総 括

今回の調査では堅穴式住居址が3軒と土坑が4基、検出され、土師器、須恵器、鉄製品が出土した。発見された遺構、遺物の内容を見る限り、古墳時代後期から平安時代の集落遺跡である。

住居址はそれぞれ古墳時代後期（7世紀後半／SB1）、奈良時代（8世紀第3四半期／SB2）、平安時代（9世紀／SB3）の住居で、切りあっている。

出土した土器は、小諸で発見される当該期の集落遺跡で一般的にみられる型式ばかりであるが、古墳時代後期に比定されるSB1で1点、産地不明の須恵器（遺物番号14）が出土しており、管見の限り佐久市も含めた周辺の遺跡で出土事例がない。本報告ではできなかったが、他地域の類例調査が必要である。

鉄製品に目を向けると、同じくSB1で征矢（遺物番号38）が出土している。佐久地方では7世紀後半に鉄鎌の出土が顕著になる現象があり、これに符合する結果である。また、奈良時代に比定されるSB2で刀子（遺物番号39）が出土しており、官衙などで文書行政を担った人物の居住が想定される。

これまでの発掘調査で本遺跡がある縁矢川左岸台地では、古墳時代後期から平安時代にかけて大規模な集落遺跡や「駅倉」の可能性がある倉庫遺構群が発見されており、官衙の存在も示唆されている。そういうた地域の特徴が刀子の出土に反映されているということも考えられる。

小諸市教育委員会 1994『東下原・大下原・竹花・舟塙・大塚原遺跡』

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書17集

市川隆之 2011「律令播磨期前後の佐久地方の特殊性（予察）」『長野県考古学会誌』135.136

小諸市教育委員会 2012『宮ノ反A遺跡群竹花遺跡III』小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書33集

小諸市教育委員会 2019『宮ノ反A遺跡群向原遺跡』小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書37集

佐久考古学会 2021『佐久の考古遺産』



調査区遠景（南より）



調査風景（東より）



表土剥ぎ



遺構検出作業



遺構埋土掘下げおよび平面図作成



遺構埋土掘下げ作業



SB1 全景（北より）



SB1 カマドの芯材と思われる石の散乱
(北側)



SB1 遺物出土状況（遺物番号 01）



SB1 遺物出土状況（遺物番号 02）



SB1 遺物出土状況（遺物番号 07）



SB1 遺物出土状況（遺物番号 08）



SB1 遺物出土状況（遺物番号 09）



SB1 遺物出土状況（遺物番号 14）



SB1 遺物出土状況（遺物番号 38）



SB2 全景（掘方まで完掘 南より）



SB3 全景
(土層観察用の土手を残し南より撮影)



SB3 カマド (南より)



SK4 と土師器（遺物番号 37）出土状況



01



02



03



04



05



06



07



08



09

0 1/4 10cm



10



11



12



13



14



15

0 1/4 10cm



38

0 1/2 5cm

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

0 1/4 10cm

39

40

0 1/2 5cm



28



29



30



31



32



33



34



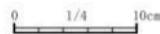
35



36



37



報告書抄録

ふりがな	みやのそりえーいせき ぐんつかのまえいせき						
書名	宮ノ反A遺跡群塚ノ前遺跡						
副書名	－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－						
シリーズ名	小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第43集						
編著者名	高橋陽一、井出勇介						
編集機関	小諸市教育委員会						
所在地	〒384-8501 長野県小諸市相生町三丁目3番3号 TEL0267-22-1700(代表)						
発行年月日	2023年3月27日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
宮ノ反A遺跡群 塚ノ前遺跡	長野県 小諸市大字 御影新田字 塚ノ前	202088 193	36° 18' 28"	138° 28' 08"	20220318 ～ 20220412	64.75	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
宮ノ反A遺跡群 塚ノ前遺跡	集落	古墳時代後期 ～ 奈良時代	堅穴住居址 土坑	3 4	土師器 須恵器 鉄製品		
要約	<p>これまでの発掘調査で本遺跡がある縁矢川左岸台地では、古墳時代後期から平安時代にかけて大規模な集落遺跡や「駅倉」の可能性がある倉庫遺構群が発見されており、官衙の存在も示唆されている。</p> <p>そういった特徴が反映しているのか、鉄鎌や刀子などの出土が認められる。</p>						

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 第43集

宮ノ反A遺跡群 塚ノ前遺跡

－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

発行日 2023年3月27日

編集 〒384-8501 長野県小諸市相生町三丁目3番3号
小諸市教育委員会

発行 小諸市教育委員会

発行所 〒384-0026 長野県小諸市本町二丁目1番4号
ヨダ印刷サービス株式会社